

Port of Hachinohe

No. **27**
Mar 2009

---Maritime & Trade Report---

●今号の主な記事

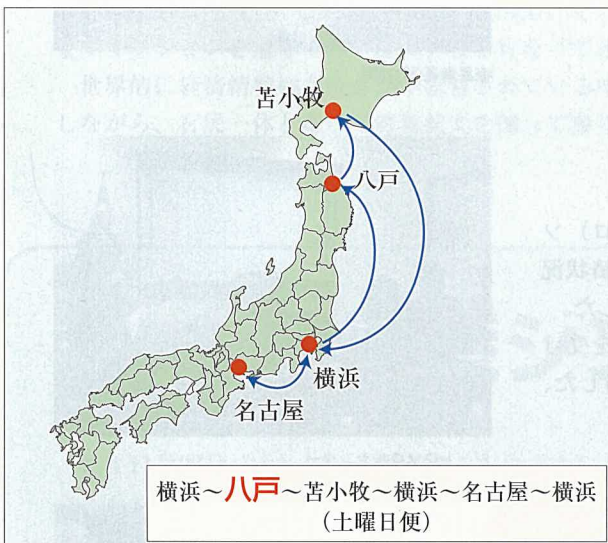
- 内航フィーダー航路新設
- 八戸港中国・韓国コンテナ定期航路交流ミッション2008
- 「八戸港シンポジウム」開催
- 八戸市海外経済協力員レポート
- 平成20年八戸港コンテナ取扱量
- 八戸港の物流を支える人々

内航フィーダー航路新設

内航海運業の鈴与海運株式会社（飯田節男代表取締役社長、本社：静岡市）は、八戸港に新たな航路を開設しました。八戸－苫小牧－横浜－名古屋－横浜の週1便のルートで、横浜港での積み替えにより、世界各港と結ばれます。

八戸港国際物流拠点化推進協議会は、昨年12月6日に初入港した「たかとり」の歓迎式典並びに航路開設の記念祝賀会を開催しました。

今回の新航路により、八戸港における内航フィーダー航路は、東京港1便及び横浜港3便を合わせて、週4便となり、利便性が向上するとともに、更なる取扱コンテナの増加が期待されます。



接 続 地	主な仕向先
横 浜 港	欧州、アメリカ西岸・東岸、中米、南米、豪州、東南アジア、中近東

お問い合わせ先

鈴与海運（株）代理店
八戸港湾運送（株）コンテナ事業部
〒031-8608 八戸市大字河原木字海岸16-4
TEL：0178-29-3177 FAX：0178-29-3119



内航船「たかとり」



歓迎式典の様子

八戸港中国・韓国コンテナ定期航路 交流ミッション2008

八戸港国際物流拠点化推進協議会（会長：小林眞八戸市長）では、昨年10月26日から29日の4日間にわたり、大韓民国のソウル市、釜山市を訪問しました。

八戸港の中国・韓国航路は、ソウル市に本社のある南星海運株式会社により1998年に開設されて以来、順調に取扱貨物を伸ばしており、10年にわたり八戸港の貿易を支えています。

今回のミッションでは、現地事情調査及び地場産品の輸出促進、八戸港のPR、釜山港の視察を目的とし、次のとおり取り組んで参りました。

I コンテナサービスの拡充について

●南星海運株式会社訪問

八戸港の「中国・韓国航路」は、昨年で航路開設10周年を迎えることが出来ました。今回の訪問では、社長の徐（シュウ）氏に対して、そのお礼を述べるとともに、今後の航路拡大と利用促進についての協力をお願いしました。

南星海運側からも、現在の経済情勢の不透明感はあるものの、八戸との航路を重要視しているという心強いお言葉をいただきました。今後も連携を密にしながら、コンテナサービスの拡充に努めて参ります。



南星海運(株)訪問

II 韓国への輸出拡大について

●貿易関係機関訪問

大韓貿易投資振興公社（KOTRA）、日本貿易振興機構（ジェトロ）ソウルセンター、釜山港湾公社（BPA）をそれぞれ訪問し、韓国の経済状況及び港湾を活用した取り組みについての情報収集・意見交換を行いました。

港湾の再開発や新港の建設という大規模な事業の概要について説明を受けるとともに、ハブポートである釜山港での貨物のトランシップを利用した、世界各地への輸出についてのPR活動の必要性を感じました。



ジェトロソウルセンター

●現地小売業者

韓国大手企業のNSテレビショッピングを訪問し、八戸地域の特産品を紹介するとともに、韓国国内における日本製品の需要なども調査して参りました。現在の経済情勢や、自国産を保護するための輸入規制などの課題はあるものの、日本製品に対する信頼感は、考えていた以上に高く、特に「大衆性」「安全・安心」「健康志向」が求められていることが分かりました。



NSテレビショッピング

●水産物の輸出拡大

釜山国際水産物卸売市場を訪問し、各部門における徹底した衛生管理教育や、市場運営の説明を受け、当市での魚市場における衛生管理の高度化や、魚市場機能の集約など、効率の良い運営の参考となりました。八戸港からは現在も、冷凍サバやスケソウタラが韓国に向けて輸出されており、今後、八戸港からのさらなる輸出拡大についても関係者と協議して参ります。



釜山国際水産物卸売市場

Ⅲ 八戸港のPR

● 「八戸港セミナー in SEOUL」

ソウル市内において、八戸港セミナーを開催し、貿易・物流関連業者ら約90名の参加のもと、八戸市や八戸港の概要説明、地場産品及び産業振興のための取り組み等をPRしました。続いて、八戸市に立地しているアルバック東北(株)のグループ企業である、韓国アルバック(株)の専務理事 金炫東(キム ヒョンドン)氏から、事例紹介として、会社概要説明及び、八戸市との人的交流などについてご講演いただきました。

セミナー後の情報交換会では、当地域の特産品であるサバ、ナガイモを利用した料理や日本酒(地酒)の提供をはじめ、青森県内の農水産品等の試食・試飲を行い、参加者からは良好な反応を得ることができました。



挨拶する小林眞 会長



特産品試食コーナー



日本酒の試飲コーナー

韓国への交流ミッションは、今回が3回目でしたが、コンテナ取扱数量は韓国ミッションをはじめて実施した1999年には4,709TEU、2回目の2004年には15,158TEU、そして昨年実績は19,854TEUと年々増加し、徐々にではありますが、これまでミッションを通じて八戸港のPRを行ってきた成果が着実に現れてきていると感じています。

世界的に経済情勢の先行きが不安視されている中、今回のミッションで得られた情報や人的ネットワークをフルに活用しながら、官民一体となって貿易拡大を図って参ります。

「八戸港シンポジウム」開催

昨年11月29日(土)に、八戸グランドホテルにおいて「八戸港シンポジウム」(主催:八戸港国際物流拠点化推進協議会、八戸港振興協会、共催:国土交通省八戸港湾・空港整備事務所、青森県、八戸市)を開催し、港湾関係者を中心に290名もの参加者がありました。このシンポジウムは、北東北経済を支える八戸港の持続的発展をめざすため、現状と課題を再認識し今後の役割やあるべき将来像について、専門家を招き参加者とともに考えることを目的に開催いたしました。

港湾管理者である青森県の三村申吾知事から、「今後の八戸港の振興のためには、ぜひとも特定重要港湾への格上げを」と、来賓や国関係者に対して働きかけがあったほか、国土交通省の須野原港湾局長から国の港湾行政の動向についてご報告いただきました。

また、東北大学大学院の稲村肇教授に「地域経済の活性化と八戸港の役割」についてご講演いただき、どのように八戸港を活用し臨海部をはじめ港湾全体の振興を図りながら、地域経済の活性化に結び付けていくかについてご教示いただきました。

さらに、「北東北経済を支える八戸港の将来像」をテーマにパネルディスカッションも行ない、学識経験者、リサイクルポート関係者、船会社等それぞれの立場から、八戸港の現状と今後の方向性についてご提言いただきました。

参加者からは、「地域経済の発展のために八戸港の果たすべき役割の大きさを再認識した」「八戸港の振興には特定重要港湾への格上げが不可欠」「このシンポジウムを参考にコンテナ集荷を図りたい」などの感想が寄せられました。



シンポジウムの様子

「八戸港セミナー」開催

1月22日（木）に、八戸グランドホテルにおいて「八戸港セミナー」（主催：八戸市・日本貿易振興機構（ジェトロ）青森貿易情報センター、八戸港国際物流拠点化推進協議会）を開催いたしました。

このセミナーは、八戸港のさらなる貿易拡大の一環として、本県の農水産品の貿易を促進するために開催したもので、船会社をはじめ八戸市内の荷主や港湾・貿易関係者約70名が出席しました。

まず、「八戸港利用のご案内」を説明後、「八戸港中国・韓国コンテナ定期航路交流ミッション2008」を報告、続いてアジアロジスティック研究所 白土茂雄代表（ジェトロ認定貿易アドバイザー）から、「農水産品の輸出動向について」と題して、ご講演をいただきました。

中国市場への輸出を図っていくためのポイントを「現地での販売体制の整備」「消費動向や為替変動、現地の検査・検疫や現地法令への対応」「物流体制の構築」に絞り込んでわかりやすく解説いただくとともに、今後の見通しについて説明いただきました。

セミナー終了後の情報交換会では、昨年秋に社長に就任された、南星海運ジャパン株式会社 代表取締役社長 好田保孝様による乾杯が行われ、船会社の皆様はじめ港湾・貿易関係者や、荷主の皆様との懇談が行われました。

この場をお借りしまして、当日ご来場いただいた皆様は

じめ、ご支援とご協力を賜りました関係者の皆様にお礼申し上げます。

ご存知のとおり地方港においては近隣港湾との競争が激化する中、昨年秋からの世界的な経済不況や円高に見られるように、八戸港を取り巻く環境は厳しい状況にあります。今後とも関係者の皆様と連携を図りながら、セミナー等を通じて八戸港をPRし、貿易拡大を図ってまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

（八戸港セミナー事務局：八戸市産業振興部産業政策課）



講師：白土茂雄氏

八戸港貿易センター施設利用ご案内

株八戸港貿易センターでは、各種会議・展示会・セミナー等にお使いいただけるよう、多目的ホール（ポトラホール）と大小会議室をご提供しています。音響設備・移動式ステージなどを無料で貸出するほか、駐車場も無料でご利用いただけます。

F A Zメンバーズ・八戸港貿易センター株主には料金ご優待制度があります。

どうぞお気軽にご利用ください。



小学生の社会科見学

■施設利用料金（金額は消費税込み）

- ◎多目的ホール 面積：350㎡（100坪）
料金：6,090円／1時間
- ◎大会議室 面積：168.7㎡（50坪）
料金：2,625円／1時間
- ◎小会議室 面積：67.5㎡（20坪）
料金：1,050円／1時間

注：準備・片付けに要した時間は上記料金の7割となります。

※当社では学校の社会科見学、団体等による港湾視察など随時受け付けています。貿易資料の提供や説明も無料で行っておりますので、ぜひご利用ください。

お問い合わせ先

(株)八戸港貿易センター
TEL0178-72-1505
<http://www.hptc.co.jp>

中国での知事トップセールス、大盛況！

リンゴをはじめとする農林水産物の輸出の拡大を図るため、1月15日から18日の日程で三村申吾 青森県知事が中国へ赴いてトップセールスを行いました。

まず、北京市にあるアジア最大規模と言われている新発地農産品市場で青森りんごのPRを行いました。市場関係者などが数多く集まり、知事の説明する青森りんご等の状況を熱心に聴いていました。中国では、旧正月には高級りんご等を贈答する習慣があり、赤く大きなりんごが好まれ、「世界一をもっと輸出して欲しい」といった要望が出されました。



県産品の紹介の様子



消費者にPRする知事

続いて、北京市昌平区にあるイオン国際ショッピングセンターにおいて、北京市の消費者に青森県産品の愛用を呼びかけました。ショッピングセンターでは、1月16日から20日まで「青森県フェア」を開催し、青森りんごを中心に、りんご酢などのりんご加工品や日本酒などの県産品を販売しました。特に、りんごは旧正月の贈答用に盛り籠での販売もされ盛況となりました。

今後も、リンゴをはじめとする農林水産物の輸出拡大を図るために、新たな輸出ルートを開拓しながら関係団体と一体となった販売促進や消費宣伝を行うこととしております。

お問い合わせ先

青森県農林水産部
総合販売戦略課
宣伝・販売グループ
TEL：017-734-9607
FAX：017-734-8158

「八戸港開港70周年記念事業」 開催のお知らせ

八戸港は、昭和14年3月30日に貿易港として開港指定を受けました。そして、平成21年3月30日に開港70周年を迎えます。

また、八戸市は平成21年5月1日に市制施行80周年を迎えることから、「市制施行80周年記念事業」「八戸港開港70周年記念事業」として、(社)日本港湾協会の通常総会を誘致し、次のとおり開催いたします。

1. 社団法人日本港湾協会 第81回通常総会
 - (1) 開催日時 平成21年5月19日(火)
13:00~16:00
 - (2) 場所 八戸市公会堂
2. シンポジウム
 - (1) 開催日時 平成21年5月20日(水)
9:30~12:30(予定)
 - (2) 場所 八戸市公会堂文化ホール

3. 参加対象者

「1. 日本港湾協会通常総会」、「2. シンポジウム」ともに、(社)日本港湾協会会員もしくは八戸港振興協会会員となりますので、ご注意ください。

お問い合わせ先

八戸市建設部港湾河川課
TEL：0178-43-2111(内線：304)



(株)八戸港貿易センターは、世界に開かれたみなと八戸港と私達に深く係わる貿易をもっとよく知っていただくために様々な活動を行っております。ここでは貿易に関する基本的なQ&Aをご紹介します。

Q 輸送費の中のTHCって何ですか？

A 近年の海上輸送はコンテナを利用することが主流となっています。コンテナ貨物は、海上輸送と陸上輸送の中継点となるコンテナヤードに集積され、そこで通関手続きや船への積み卸しなどが行われています。このコンテナヤード内での輸送や荷捌作業についての料金がTHCで、Terminal Handling Chargeの略です。CHC：Container Handling Chargeとも呼ばれています。

コンテナ輸送が普及したことで、それまでは貨物の容量や価値(値段)を基礎としていた輸送費が、コンテナ1個(サイズ別)あたりで設定されるようになりました。THCもコンテナのサイズ・種類毎に1個あたりの料金が設定されています。

THCは積地と揚地、双方で発生する費用ですが、地域によって金額に相違があります。また、輸出者と輸入者のどちらが負担するのか、後で当事者間のトラブルにならないように、売買契約の中で明確に取り決めておくことをお勧めします。

八戸市海外経済協力員レポート

八戸市は、平成21年3月現在、海外在住（天津、シンガポール、マニラ、タコマ）の4名に「八戸市海外経済協力員」を委嘱し、現地の出来事や経済状況をレポートしていただいております。

また、八戸地域の企業等が協力員の在住都市を訪問する際には、協力員に現地事情の説明等をしていただけますので、ご希望の方は八戸市産業振興部産業政策課（TEL0178-43-9244）までご連絡ください。（なお、海外経済協力員の日程等の都合により、対応できない場合もありますので、予めご了承ください。）

REPORT

マニラレポート



ANDES SUMITRONICS, INC.
山下 正彦氏

フィリピン共和国の近況紹介

八戸市民の皆様、新年明けましておめでとうございます。
フィリピン共和国（以下「フィリピン」）の海外経済協力員の任命を頂いています山下です。

今回のレポートは「フィリピンの近況」をテーマにご紹介したいと思います。

07年のフィリピンはGDP7.3%の成長率を達成しています。しかし、08年は年初来より輸入依存度の高い食糧（日本には米騒動として報道）・原油価格の高騰に見舞われ急激なインフレ不況に陥りました。一旦は原油価格等の急反発により落ち着きを取戻したものの秋口からは米国発サブプライム問題に端を発した世界的な景気低迷の波が遂に大津波となって襲い掛かり、他のアジア新興国と同様に厳しい状況が続いています。

弊社が所属しています電子産業界（フィリピン輸出額の60%を占有）を例に近況を紹介すると、08年前半までは概ね順調な生産活動で推移していましたが、後半に入ってから世界同時不況の影響により生産活動状況は大きく様変わりしています。そのため、日系・欧米系・アジア系企業及び地場企業を問わず、多くの企業では①稼働時間・稼働日の短縮②コスト削減③ワークシェアリング・人員削減等を実施しており、最近では工場一部／全面閉鎖のニュースも目立ち始めています。暗いニュースの一方で、大手メーカーはアジア地域生産拠点の再編成（チャイナ+1）を進めており、その中で注目を集めているのはベトナムですが、ここに来てインフラ・労働力などで課題も指摘されています。フィリピンの課題として、『高電力コスト・交通インフラの整備不足・労働法改正問題』はありますが、『質／量共に豊富で安価な労働力・英語圏による技術移転の容易さ・フレンドリーな国民気質・中／印／日／アセアンの交通要所・アメリカとの歴史的な友好関係』など、進出先としての条件が揃っていることから期待も大きくなることが予測されています。実際には世界同時不況の影響により暗いニュースが多い中で、数社の米国系・韓国系・台湾系そして日系企業によるフィリピン既存工場の強化及び新規進出計画のニュースが報道され始めています。

〈09年電子産業界の展望：フィリピン日本人商工会議所資料より〉

戦略・経営の見直しは継続され、大幅増設／建設、工場閉鎖、売却等の動きが見られる年になる。中国のコスト上昇・雇用条件変更等により更に他国をリサーチする企業が増えると思われる。一方、フィリピンは近隣諸外国と比べると製造業としては経営し易く、各企業から見直される可能性はある。しかし、世界経済の減速の影響はいつ回復するか予断を許さない部分があるため、フィリピン国内の経営は総じて厳しい企業運営が継続すると予測される。

フィリピン他業界に於いても同じような環境下であり「2009年は本当にガマンの年」が話題の中心となっています。

〈フィリピンで成長が見込まれている観光業界の紹介〉

各業界共に世界経済の減速影響により引続き厳しい見通しが予測される中で、観光業界とコールセンターに代表されるBPO（Business Process Outsourcing）産業は09年においても成長が期待されています。

日本には芳しくないイメージのあるフィリピンですが、少しでも印象を変えて頂ければとの思いから観光業界の一端を紹介致します。

〈フィリピンの観光業界〉

フィリピン観光省統計では、08年の1月～10月の観光旅行訪問数は260万人程度となっています。（前年対比4%の伸び）

フィリピンの観光スポットとしては、世界遺産（8カ所）、歴史／文化的遺産、国際レベルのリゾート地（日本ではセブ島がポピュラーですが）、ダイビング／フィッシングスポット、ゴルフ場など数々あります。ツアー・メニューも盛り沢山で、景勝地ツアーの他にエコツアー、健康ツアー（フィリピンのスパはセラピスト世界では高い評価）、メディカルツーリズム、リタイアメントツーリズム、語学研修ツアーなどのプランがあります。観光目的には色々あると思いますが、『温暖で物価の安いフィリピンに注目』が共通しているようです。

ちなみに訪比外国人の上位国は①韓国人（52万人）②米国人（48万人）③日本人（31万人）です。最近の傾向として韓国、日本からの旅行者は減少していますが、ロシア、インド、北欧諸国（スカンジナビア諸国）、UAE首長国、中国そして欧州諸国（何故かフランス）からの旅行者が増えているようで国際色が高まっています。

近くて（東京から飛行機で4時間）遠い印象のあるフィリピンですが、機会がありましたら『暖かい気候と温かいハートに包まれた国フィリピンへオンデアンセ』。

暗いニュースで始まった2009年ですが、世界の経済環境が丑年（アジア諸国では幸運の象徴）にちなんで好転しますことを願いたいと思います。

平成20年八戸港コンテナ貨物取扱量

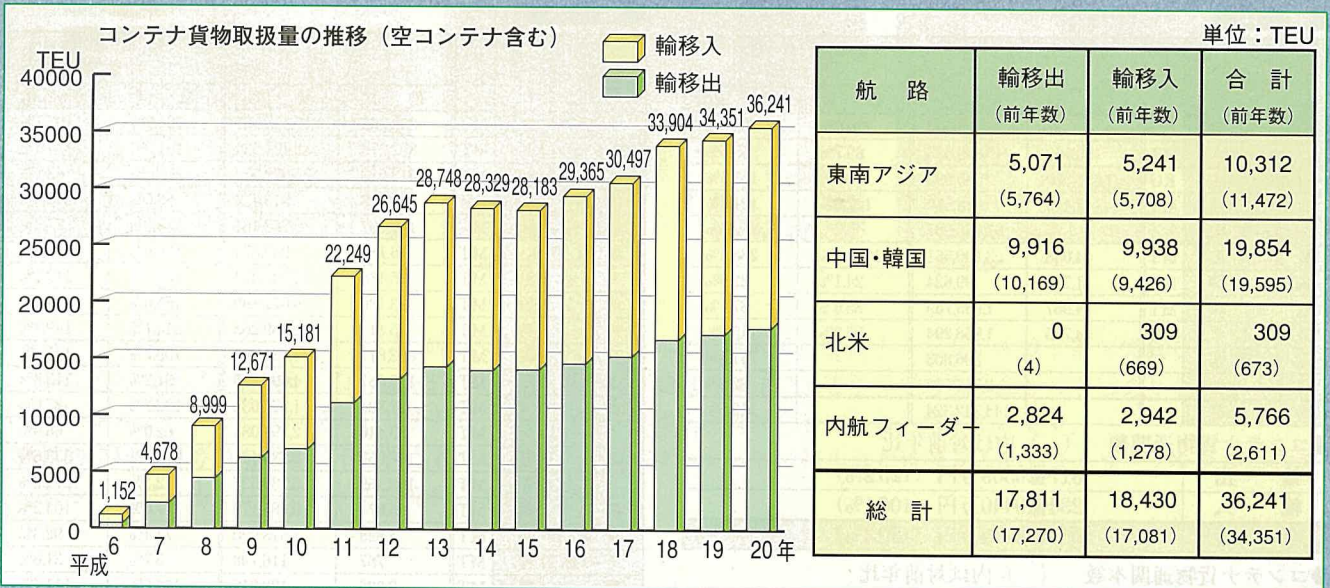
平成20年の八戸港のコンテナ貨物取扱量（空コンテナ含む）は対前年比で約6%増加し36,241TEU、実入りコンテナも対前年比で1,768TEU、約8%増の22,806TEUと、ともに過去最高を記録しました。

中でも、昨年に引き続き内航フィーダー航路が好調で、対前年比220%増の5,766TEUを記録しています。

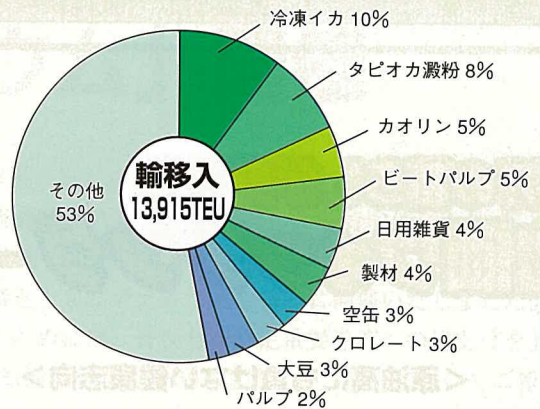
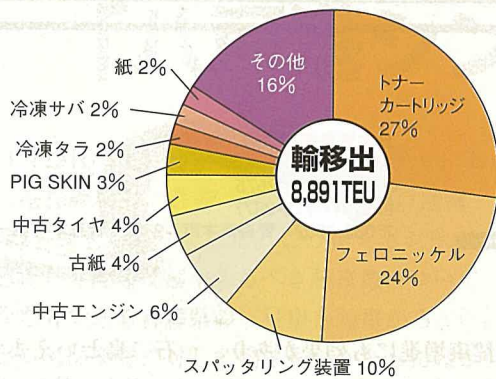
主な取扱品目は、輸移出では①トナーカートリッジ、②フェロニッケルが、約4分の1ずつを占めており、③スパッタリング装置、④中古エンジンと続きます。輸移入では①冷凍イカ、②タピオカ澱粉、③カオリンが挙げられます。

また、主な貿易相手国は、輸移出では①中国、②台湾、③オランダ、輸移入では①中国、②アメリカ、③タイです。

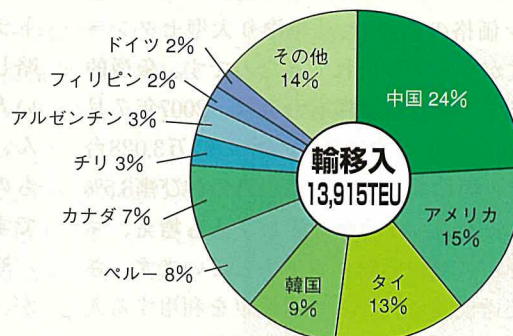
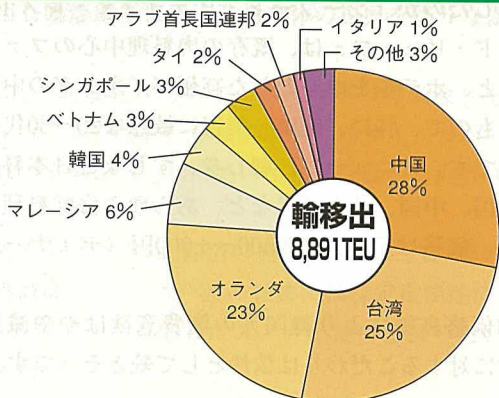
平成19年までは、トナーカートリッジやカオリンの取り扱いが少なかったのですが、荷主企業のご理解、船会社などの関係各位のご協力による船の増便などにより、国際貿易港として外貿コンテナ定期航路が開設されて以来の過去最高の取り扱い実績を記録したと言えます。また、これまでバラ積により運搬されていたものがコンテナ化されたことでも、八戸港でのコンテナ取り扱いが増加した要因と言えます。



品目別コンテナ取扱数量



国別コンテナ取扱数量



※「品目別コンテナ取扱数量」「国別コンテナ取扱量」は実入りの数字となります。
 ※単位のTEUは20フィートコンテナ換算です。

八戸港の貿易概況報告（平成20年1月～12月）

〒039-1162 青森県八戸市豊洲3-9 八戸港貿易センター3階
 日本貿易振興機構（JETRO）八戸情報デスク TEL:0178-72-1850 FAX:0178-72-1503

<概況>

平成20年の八戸港の貿易概況は、輸出額が一般機械、船舶、鉄鋼製品等の好調により7年連続増加（13.5%増）。また輸入額はトウモロコシ、大豆粕等が好調だったが3.2%減で3年連続の最高額更新とはならなかった。輸出入額全体では、輸出の好調により初の3,000億円を突破した。貿易額のうちコンテナ貨物通関額は、前年比20.4%増の1,051億9,749万円となり、コンテナ通関本数は前年比9.4%増の23,308TEUとなった。

■平成20年1月～12月の貿易額（単位：千円）

※出典先：八戸税関支署発表の貿易統計資料
 （むつ小川原港・久慈港含む）

輸 出

品名	単位	今年累計		対前年比 累計%	
		数量	価格	数量	価格
船 舶	NO	11	35,884,500	220.0%	196.8%
フェロニッケル	MT	90,168	43,860,683	89.7%	55.5%
有機化学品	KG	1,696,320	585,993	130.0%	133.5%
紙 製 品	MT	2,440	218,560	122.6%	121.4%
一 般 機 械			53,788,007		259.8%
鉄 鋼 製 品	MT	44,038	3,100,561	1199.9%	268.8%
飼 料	MT	1,739	99,624	24.1%	22.9%
魚 介 類	MT	14,967	1,935,769	85.6%	87.1%
鉄 鋼 く ず	KG	34,755	1,958,294	96.2%	115.9%
電 気 機 器			396,803		711.8%
そ の 他	—		2,513,530		82.0%
合 計	—		144,342,324		113.5%

●コンテナ貨物通関額（ ）内は対前年比

輸 出	817億0309万円（125.2%）
輸 入	234億9440万円（106.1%）
合 計	1051億9749万円（120.4%）

●コンテナ貨物通関本数（ ）内は対前年比

輸 出	9,265TEU（116.8%）
輸 入	14,043TEU（105.0%）
合 計	23,308TEU（109.4%）

輸 入

品名	単位	今年累計		対前年比 累計%	
		数量	価格	数量	価格
ウッドチップ	MT	839,862	17,415,169	104.9%	102.7%
トウモロコシ	MT	892,273	32,421,534	101.0%	134.5%
ニッケル鉱	MT	2,013,613	24,072,572	90.0%	63.9%
木 材	CM	21,918	619,428	53.5%	49.3%
亜鉛鉱	MT	141,707	9,788,481	138.9%	75.3%
亜鉛さい	MT	16,186	957,874	109.9%	50.6%
大豆粕	MT	225,486	12,421,374	100.3%	142.7%
魚 介 類	MT	23,136	6,071,890	156.0%	114.2%
飼 料	MT	95,412	2,289,263	214.1%	149.2%
石 炭	MT	823,811	11,434,069	106.7%	147.3%
こ ー り ゃ ん	MT	135,651	4,692,515	91.2%	113.3%
ウッドパルプ	MT	27,304	1,975,034	102.7%	87.6%
カオリン	MT	85,446	2,395,084	62.0%	66.9%
肥 料	MT	46,059	2,730,404	275.3%	533.6%
コークス等	MT	103,369	5,739,537	112.1%	214.2%
鉛 鉱	MT	65,674	9,485,179	137.0%	104.2%
金 属 製 品	MT	4,828	1,518,020	74.4%	92.3%
その他穀物	MT	787	116,198	5.7%	31.6%
糖 蜜	MT	8,026	122,819	106.6%	111.1%
一 般 機 械			1,380,009		76.8%
そ の 他	—		19,327,913		68.7%
合 計	—		166,974,366		96.8%

世界の暮らしが見える 物価ウォッチング—ソウル—

日本貿易振興機構（JETRO）
 青森貿易情報センター
 TEL 017-734-2575
 FAX 017-773-2877
 〒030-0802 青森市本町1-2-15 青森本町第一生命ビル5階

<原油高にも負けない健康志向>

世界的な原油価格高騰が韓国人の乗用車購買パターンを大きく変えました。従来韓国は、急速な経済成長の過程で、「黒塗り大型セダン」がステータス・シンボルとして認識されていました。しかし、ガソリン価格の高騰で、「黒塗り大型セダン＝富・名誉」という方程式が少しずつ崩れてきたのです。象徴的なのは軽自動車の増加です。軽自動車保有台数は、2007年7月末の83万2,725台から、2008年7月末には9.7%増の91万3,028台を記録しました。これは、同期間の軽自動車以外の伸び率3.5%をはるかに上回る数値。また、マイカーを手放す人も増え、マイカー通勤から地下鉄やバスでの通勤にシフトしています。さらに、マイカーや公共交通機関に代わって自転車を利用する人も増えています。自転車ブームは、単に財布に貢献するのみならず、健康増進にも効果があり、一石二鳥といえます。

ら、健康増進にも効果があり、一石二鳥といえます。

食文化にも健康志向の風が続いています。特に、最近では肉料理を避け、海鮮料理を求める人が増えています。このトレンドを反映したのが「シーフード・ビュッフェ・レストラン」。シーフード・ビュッフェは、既存の肉料理中心のファミリーレストランと、ホテルを中心とした高価バイキングの中間領域を攻略したもので、特に、健康・美容に敏感な20～30代の女性に高い人気です。メニューは、刺し身、すしなど日本料理はもちろん、韓国、中国、イタリアなど、あらゆる海鮮料理を網羅したもので、価格は日本円で3,500～4,000円（ディナー基準）程度です。

原油価格高騰により韓国人の消費意欲はやや減退しましたが、食に対するこだわりは依然として続きそうです。



八戸港を利用する貨物は、年間3,000万トン前後ですが、そのうちの約40%をフェリー貨物が占めています。今回は、一般旅客の手段としても身近な存在であるフェリーについてご紹介します。

日本では、昭和40年代に自動車の普及が進んだことで、海陸一環輸送により流通コストを軽減し、物資の定期的な輸送を実現するものとして、フェリーの需要が高まりました。青森県においても、津軽海峡を隔てて向き合っている北海道との輸送ルートとして、フェリー需要が急増しました。昭和47年には、青森港と八戸港におけるフェリー接岸用埠頭の整備・運用管理を目的に、財団法人青森県フェリー埠頭公社が設立されました。八戸港では、八太郎3号埠頭にフェリー専用岸壁として水深7.5m、全長165mの埠頭とフェリーターミナルビルが整備され、昭和48年に八戸～苫小牧間のフェリーが就航しました。その後、需要は順調に伸び、昭和54年には新たに八戸～室蘭間も就航し、平成2年からは年間40万人以上の乗降人員を記録するなど、北海道と本県をつなぐ重要な手段となりました。

フェリーは旅客運送の他に、貨物を積載したトラック等の車両をそのまま運搬することができます。このフェリー貨物は、就航初年は100万トンほどでしたが、平成元年には1,000万トンを越え、八戸港全体の貨物量の約40%を占めるようになり、物流拠点としての八戸港にとって欠くことのできないものとなりました。

現在は、川崎近海汽船株により1日に4便運航されている苫小牧航路によって、年間1,000万トン前後の貨物が扱われています。フェリーを利用する貨物のほとんどは札幌周辺地域との行き来ですが、八戸港の発着は青森港まで陸路を運ぶよりも時間的に有利なため、今後もその重要性は高まっていくものと思われます。

現在のフェリーターミナルは船が接岸するバースが一つですが、将来的には2バースに広げることで、よりお客様の利便性を高めていくことが期待されています。船も高速化が進んでおり、車両が直接乗り込むことで物資のスムーズな流通を実現するフェリーは、海に囲まれた青森県で大きな役割を担っています。



フェリーターミナル外観



■総トン数/7,005t ■全長/134.0m ■最大速度/23.2ノット
■車両積載能力/トラック90台(9m換算)、乗用車20台 ■旅客定員/600名


画像提供
川崎近海汽船株式会社 八戸支社
TEL:0178-28-2018

コンテナ航路		船社名	集荷代理店	寄港間隔	主な寄港地
外航	東南アジア航路	PIL	八戸通運	1便/週	[寄港地] 台湾(高雄、基隆、台中) [接続地] 東南アジア全域、中国、豪州、欧州、南米、アフリカ、他
	中国・韓国航路	南星海運(株)	八戸港湾運送	2便/週	[寄港地] 韓国(釜山、光陽)、中国(大連、青島、上海、寧波) [接続地] 中国、ベトナム、欧州、北米、南米、豪州、他
	北米航路	WSL	八戸港湾運送	1便/月	[寄港地] アメリカ(シアトル)、カナダ(バンクーバー)
内航	内航フィーダー航路	(株)横浜コンテナライン	八戸通運	1便/週	[寄港地] 横浜 [接続地] 世界各地
		井本商運(株)	八戸港湾運送	2便/週	[寄港地] 東京、横浜 [接続地] 世界各地
		鈴与海運(株)	八戸港湾運送	1便/週	[寄港地] 横浜・名古屋 [接続地] 世界各地

PIL: Pacific International Lines (Singapore) WSL: Westwood Shipping Lines (U.S.A.)

主な寄港地～八戸港の所要日数(最短)

寄港地	所要日数(日)	
	輸出	輸入
釜山(韓国)	3	4
光陽(韓国)	4	5
蔚山(韓国)	5	8
基隆(台湾)	7	7
高雄(台湾)	8	6
香港(中国)	11	15
大連(中国)	6	8
青島(中国)	7	7
上海(中国)	7	7
天津新港(中国)	8	9
寧波(中国)	6	8
蛇口(中国)	14	13
シンガポール	19	16
ジャカルタ(インドネシア)	27	21
バンコク(タイ)	22	23
レムチャパン(タイ)	23	21
マニラ(フィリピン)	27	24
ホーチミン(ベトナム)	26	20
ハイフォン(ベトナム)	10	12
ロングビーチ(米国西岸)	16	18
シアトル(米国西岸)	21	13
チャールストン(米国東岸)	30	23
ニューヨーク(米国東岸)	29	22
バンクーバー(カナダ)	23	13
ブリスベン(オーストラリア)	31	29
オークランド(ニュージーランド)	40	38
サウサンプトン(イギリス)	29	35
ルアーブル(フランス)	30	35
ブレーメルハーフェン(ドイツ)	32	35
ハンブルグ(ドイツ)	43	44
ロッテルダム(オランダ)	41	46
アントワープ(ベルギー)	45	42



みなと通信

今回は、八戸港における国際航海船舶の保安に関する内容について、ご紹介します。

八戸港にフェンスに囲まれて近づけない岸壁や棧橋があります。これらのフェンスは、何のために設置されているのでしょうか？フェンスに囲まれた区域では、出入りする人物や車両が通行証を持っているか、または正当な用務により出入りを行うかをチェックしています。

これは、「海上における人命の安全のための国際条約」に基づいて設けられた「国際航海船舶及び国際港湾施設の保安の確保等に関する法律」に定められた保安措置をとるため、国際航海船舶が接岸する埠頭・棧橋への出入りを制限しているものです。

難しそうな用語が並んでしまいましたが、つまりは「テロ行為から外航船・港湾を守る」ための仕組みです。

この他にも、フェンス内の巡回やカメラ・センサーなどによる監視により、八戸港に寄港した外航船と港湾施設の安全を確保しています。

「海上における人命の安全のための国際条約(The International Convention for the Safety of Life at Sea)」は「SOLAS条約」と略されています。元々は、船舶の安全確保のため救命艇や無線装置の装備等の規則を定める条約でしたが、国際テロ行為が海上運送にも影響を及ぼさないように、2002年12月に改正され、2004年7月1日から運用されています。

対象となっている埠頭・棧橋は以下の通りです。
八太郎1号埠頭C、D、E、F、G岸壁/八太郎2号埠頭1岸壁/八太郎2号埠頭J岸壁/八太郎4号埠頭P岸壁/河原木2号埠頭A岸壁/河原木3号棧橋/白銀埠頭B岸壁/三菱製紙専用岸壁/東北グリーンターミナル専用棧橋


八戸港管理所 TEL:0178-28-2105 FAX:0178-20-4746

海上コンテナ輸送の御用命は「八戸港国際物流拠点化推進協議会」加盟の各社へ

八戸通運株式会社(海運営業所) TEL: 0178-29-0202 FAX: 0178-20-3281
 八戸港湾運送株式会社 TEL: 0178-29-3177 FAX: 0178-29-3119
 新丸港運株式会社 TEL: 0178-20-2321 FAX: 0178-20-2353
 八戸運輸倉庫株式会社 TEL: 0178-28-2401 FAX: 0178-28-6976
 三八五流通株式会社(八戸区域事業所) TEL: 0178-52-7755 FAX: 0178-52-7751
 日本通運株式会社八戸支店 TEL: 0178-27-3311 FAX: 0178-27-5520
 ナラサキスタックス株式会社八戸支店 TEL: 0178-20-1651 FAX: 0178-20-2444
 青森県・八戸市・八戸商工会議所・八戸港振興協会
 株式会社青森銀行・株式会社みちのく銀行・八戸信用金庫

編集後記

今年は八戸港が開港して70周年、八戸市が市制施行80周年の節目の年にあたります。八戸市が市制施行80周年に向けて、マスコットキャラクターを市民に募集して、決まったのが「いかずきんズ」。ピンクとブルーそれぞれの頭巾をかぶったウミネコのキャラクターです。この頭巾、よーく見ると結び目のところにイボイボが... そうです、イカの足が結び目なんです。陸奥湾の魚菜市場で見かけるおばさん達、地元では「いさばのカッチャ」と呼びますが、このカッチャがかぶっているスカーフからイメージしたんでしょうか。ちょっとたれ目のピンクの頭巾、くりっとした目のブルーの頭巾、どちらもかわいい足でちょこんと立っています。頭巾には80の数字がプリントされていますが、この数字もイカの吸盤に似せたデザインだとか。さすがにイカの町だけに細かいところまで凝ってますね。



いかずきんズ



八戸港国際物流拠点化推進協議会 Hachinohe Port Promotion Commission
 〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1-1 八戸市産業振興部産業政策課内
 TEL:0178-43-9244 FAX:0178-47-5687 e-mail: hppc@hi-net.ne.jp www.hi-net.ne.jp/hppc

(株)八戸港貿易センター Hachinohe Port Trade Center Co., Ltd.
 〒039-1162 青森県八戸市豊洲3-9 八戸港貿易センター3階
 TEL:0178-72-1505 FAX:0178-72-1503 e-mail: mail@hptc.co.jp www.hptc.co.jp

■ 二〇〇九年三月発行
 ■ 発行者 八戸港国際物流拠点化推進協議会・(株)八戸港貿易センター
 ■ 企画編集 (株)八戸港貿易センター